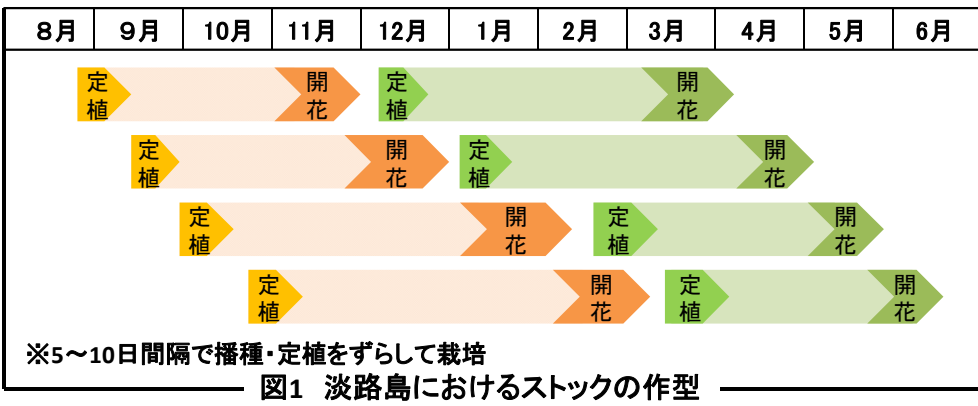


遠赤色光利用による花きの生育促進技術の改良と現地農家への普及

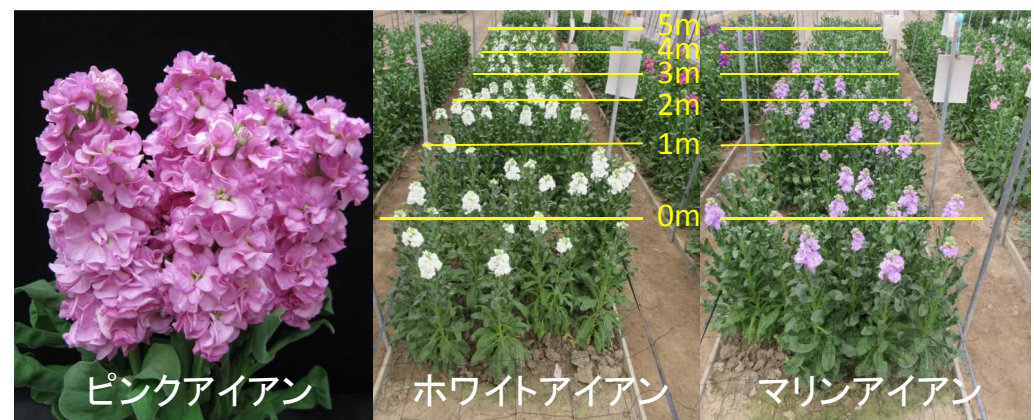
【背景・目的】
 淡路島のストック栽培は11月～6月の8か月間、冠婚葬祭用や家庭用として市場出荷されている(H29年度出荷数量約160万本、出荷額約1億円)。しかし、近年の気象変動による1作目の開花遅延により、2作目の栽培の開始が遅れたり、できなくなる等農家の経営を圧迫している。
 そこで、北淡路農業改良普及センターと協力して遠赤色LEDを利用した花きの生育促進技術を淡路島に適合するように改良し、現地普及した。



- 技術の概要**
- ◆ 淡路島に適合した照射条件
 - 電照時間は日没後3時間(EODライティング)
 - 電照期間は花芽分化期から第一小花着色期まで
 - 必要な放射照度は20mW/m²
 - ◆ 主要な品種における照射有効範囲の検討
 - 品種間差はあるが、概ねランプの直下から2～3mまで有効(表)
 →最も栽培量の多いホワイトアイアンは5mまでと最も有効範囲が広い
 - ◆ 遠赤色LED(富士電機製「早咲きジオライト」)1台の照射有効範囲(6m×3m)は白熱電球(直径3m)よりも広く、設置台数を減らせる。

表 遠赤色光照射の有効範囲と効果

品種	ホワイトアイアン	ピンクアイアン	マリンアイアン	ローズピンクアイアン	パープルアイアン	イエローアイアン
有効範囲	～5m	～2m	～2m	～3m	～3m	～2m
開花促進日数	7～27日	7～27日	13～31日	11～37日	3～14日	4～17日
草丈	+4.4cm	+11.4cm	+11.0cm	+1.0cm	+11.3cm	+2.4cm



- 技術の普及
 国産花きイノベーション推進事業の活用**
- ◆ 淡路市一宮 スtock栽培農家5戸
 技術導入により品質は同等のまま確実な年内出荷と二期作目への移行を目指す。
 - 現地実証結果(北淡路農業改良普及センター調べ)
 - 無電照に比べて4日～12日 開花促進
 - 年内収穫率 約80%から100%に！(9月定植作型)
 - 草丈 3.5～6.1cm増加(ホワイトアイアン)
 8.2～10.6cm増加(ピンクアイアン)
 - 市場での品質評価も無電照と同等で良好な評価
- ★遠赤色光を利用した生育促進技術の活用によりストックの二期作を行う上で最も重要となる“品質を確保しつつ開花促進して確実な年内出荷”が可能なことを現地で実証できた。
- ◆ 新規農家への導入、既設農家への追加導入予定！
 H29 30a →H30 55a(約1.8倍)

【技術の活用】 この技術の導入により計画的な生産・出荷が可能となり、ブランド力が向上して農家の収益向上、経営安定につながる。今後は従来の開花促進剤(ピピフル)処理で現れる奇形花がどの程度減少するかなど、副次的な効果についても現地で確認しつつ、普及を進める。